様式２

令和５年度 （山北高等学校）不祥事ゼロプログラムの検証等

○　課題・目標別実施結果

課　　題	目　　標	実施結果と目標の達成状況
教職員に求められる高い倫理観の保持・向上	教育公務員としての自覚を持ち、法令遵守を常に意識し、公務外非行の防止に努める。	各種の報道記事や、毎月発行される職員啓発点検資料を不祥事防止研修会で共有しながら、常に神奈川県職員としての自覚を持ち行動し、法令を遵守した。
職場のコンプライアンス意識の醸成	ハラスメントのない職場を実現する。また、教職員が悩みを相談できずに一人で抱え込むことがないように、啓発点検資料等を通じて相談窓口を広く周知する。	職場での会話に際しては、言葉遣い、発言内容等に十分配慮し、誤解のないよう自分も相手も尊重しながらの相互尊重コミュニケーションに各々が努め、適切な業務執行体制の整備を図った。
わいせつ事案防止のための校内の環境（システム）の整備	生徒との相談、指導において、複数対応を徹底する。また、スクールカウンセラー等の専門家との早期の連携や、他教職員との情報共有等の留意事項を示し、相談、指導における組織的な対応を徹底する。	生徒の連絡先の収集は必要最小限にとどめ、ＳＮＳの手段は用いない。また、生徒の指導に際しては、組織的に対応（複数での対応）し、言葉遣い、発言内容に細心の注意を払い、場所、方法等にも十分配慮した。
体罰・不適切な行為（指導）の防止	生徒に対する体罰及び暴言・威迫・無視等の不適切な行為は、決して許されない行為であり、普段の生徒指導や部活動において体罰等を認めない学校風土づくりに努める。	人権教育研修を実施し、教職員の人権意識の向上を図るとともに、普段から感情に流されず、常に適切な言葉遣いを心がけて行動した。
定期試験、成績処理、進路、入学者選抜等に係る不適切な事務処理の防止	成績処理及び進路関係書類の作成及び取扱いに係る体制と手順を明確にしかつ、業務の効率化を図りながら事故を未然に防止する。	入学者選抜業務、成績処理及び進路関係書類の作成等マニュアルに則った業務を遂行し、複数での点検、複数回の確認作業を徹底し、ミスの防止を図った。
飲酒運転の根絶、交通事故・交通違反の防止	教職員は生徒に交通安全教育を行う側であることを自覚し、交通法規遵守を図り、自ら交通違反、交通事故をおこさない。	時間と気持ちに余裕を持った安全運転に努め、公務員としてだけでなく、社会の一員として、交通安全に努め、交通法規遵守を徹底し行動した。

○　令和５年度不祥事ゼロプログラム全体の達成状況と令和６年度に取り組むべき課題
（学校長意見）

令和５年度は、企画会議で不祥事防止会議を、職員会議で不祥事防止研修会をそれぞれ開催し、常に職員一人ひとりが教職員である前に、一人の人間として自覚を持って行動することを心がけさせ、神奈川県職員行動指針及び神奈川県公立学校教職員の倫理に関する指針に基づき、教育公務員として職務に取り組むよう促した。また、危機管理意識の向上と事故防止の徹底を図り、不祥事ゼロに努めてきた。特に定期試験、成績処理、進路関係書類、入学者選抜等の作成及び事務処理については、必ず複数の教職員で対応し、適切かつ確実な点検作業や確認作業を行うよう指示し、事故防止の徹底を図った。また、県内で教職員によるわいせつ・セクハラ行為の事案が後を絶たない状況をふまえ、緊急に不祥事防止のための研修会を開催しペアワークやグループ討議で話し合い不祥事防止のためのポスター作成を実施し全体発表させ規範意識の向上を図り、万が一不祥事が起きた時の周囲に与える影響の大きさなども示し、自分事としてとらえるよう指導した。各グループから出されたポスターについては職員室の複数個所に掲示をし、その後の不祥事防止の啓発と徹底に努めた。

令和６年度においても、教職員一人ひとりが公務内外を問わず高い倫理観を持って行動し、ハラスメントのない風通し良い職場づくりを実現させ、生徒の指導や支援については複数で対応し、場合によってはＳＣやＳＳＷなどの情報共有しながら、専門家と連携を図りながら組織的でかつ適切な対応を徹底する。また、個人情報等の管理、情報セキュリティー対策についても、出し入れや保管については、適切かつ確実に行うことを徹底する。今後も、不祥事ゼロを目指し、教職員である前に一人の人間としての自覚と責任を持って行動することを常に心がけ、あらゆる課題や場面を想定し目標を掲げ、教職員一丸となって不祥事の防止に取組んでいく。